今を知る

現在は丘陵地の住宅街に

丁子田1号窯と市ケ洞1号窯は、長久手市の南西端。新興住宅地として商業施設が増えているエリアですが、ほんの10数年前まではまだ里山の風景が広がっていました。

市指定文化財となった「丁子田1号窯・市ケ洞1号窯出土刻銘須恵器」の10点は、ここから出土したものです。市ケ洞1号窯のあった辺りは、現在長湫南部公園となっています。

長湫南部公園

飛鳥時代の窯跡から出土した大甕

この大甕は口径が54cmあり、高さは117.5cm。写真の小学生（身長128cm）と比べてもとても大きいことが分かります。頸部や口縁部、体部など、バラバラで発掘された出土品をつなぎ合わせ、往時の大甕の姿が徐々に復元されました。

叩き技法イメージ図

こんな大きな甕をどうやって作った？

須恵器の時代にはすでにロクロの技術が伝来し、高度な技術を持つ工人集団が存在したようです。甕の場合は、粘土紐を積み上げて、当て具で内側を押さえながら外側から板で叩き、全面を叩き締める「叩き技法」で成形していました。

古窯を知る

長久手市に点在する窯跡

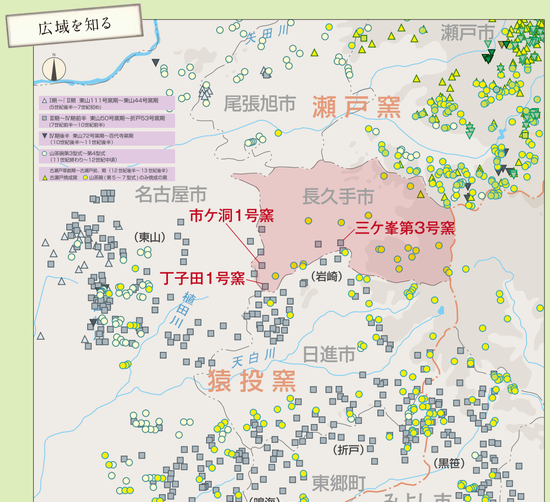
飛鳥時代に須恵器を焼いた窯跡が丁子田1号窯と市ケ洞1号窯。平安時代に灰釉陶器を焼いたのが三ケ峯第3号窯と山越第1号窯。鎌倉時代には山茶碗を焼いた三ケ峯第1号窯や第7号窯などが確認されています。

三ケ峯第3号窯（市指定文化財）

山越第1号窯　灰釉手付小瓶

三ケ峯第7号窯　重ね焼きされた山茶碗

広域を知る



図版提供：瀬戸蔵ミュージアム（窯跡分布図を一部加工）

およそ900年間続いた猿投窯

猿投山西南麓古窯跡群＝猿投窯は東海地方最大の窯跡群で、これまでに1000基以上が確認されています。5世紀前半の須恵器生産に始まり、7世紀後半には日本最大級の須恵器生産地となっていました。それから14世紀に山茶碗生産を終えるまで、約900年間も大規模な生産が続けられた猿投窯。瀬戸窯や美濃窯、常滑窯の母胎として常に先進的な地位にあり、のちの陶磁器産業の発展の礎となりました。

長久手市では丁子田1号窯と市ケ洞1号窯の3年に及ぶ発掘調査を調査報告書にまとめ、出土品を整理し保管しています。古窯では三ケ峯第3号窯（市指定文化財）が発掘後保存され、間近で見学することができます。

明日香ちゃん　りにも君

小学校3、4年生用社会科資料
「りにも！ほとぎのさとへ」
キャラクター

監修 愛知淑徳大学 教授 柴垣勇夫
編集・発行 長久手市
〒480-1196　愛知県長久手市岩作城の内60番地1
☎0561-56-0627 Fax0561-62-1451　http://www.city.nagakute.lg.jp
平成26年（2014）3月発行　初版

ほとぎのさと 長久手

丁子田・市が洞の窯跡から
古代飛鳥とのつながりが見えてきた

市指定文化財　丁子田１号窯出土刻銘須恵器

長久手市